

2024 年 5 月 25 日(土)夜『神聖で繋がり合う日』 メール前文と始めの話

★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★

2024 年 5 月 25 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 メール前文

『光り輝く神人たちよ。今こそ全人類神聖復活の時が来ている。人類は真の平和と幸せを願い、救いを求めている。臆することなく神聖復活の印を伝え、あるいは神聖から生まれる言葉を語りかけよ。

だが、その時のあり方こそが問題だ。言葉、行為に深い愛と優しさを込め、決して上から目線ではなく、不幸な人々には真心を込めて寄り添い、光り輝く神人そのものの姿を示してゆくのだ。なぜなら一刻の猶予もないからだ。たとえ一瞬、他から批判されても、今、究極の真理を語ることが出来る人は神人しかいない。

断固として、まずは自分自身に神聖を語りかけていただきたい。自らの心が納得するまで神聖を語りかけることにより、自らに真の確信が出来たなら、次は他に寄り添いながら、自然な形で神聖の言葉を伝えていただきたい。それにより自らの内奥から神聖が迸り出てくるのである。

究極、自らが自らを絶対的に信じきることに尽きる。』

今回は、2020 年 5 月に伝えられた冒頭の『神界からのメッセージ』を、改めて心の奥に落とし込み咀嚼し、今の私たちがそこに書かれている内容を生ききるための取り組みを行ないます。

神聖復活を果たした私たちは、自らの中で（生命の本質への）確信をさらに深めながら、いかなることも神仏に依存せず、自らの神聖（本質）に根ざした“無限なる能力”を引き出すことにより、思ったことを確実に成就に至らしめることが出来ます。

そのような「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」の生き方は、「一人一人が神聖の響きを声に出し、言葉に表わしつづける不断の努力によって、普遍的な意味をもって地上にあまねく波及してゆくことになる」という意味のメッセージが、同じ時の文章に書かれています。

また、「神聖復活を成就した人は、神聖に基づいた自らの考えを、徹底的に確信を持って堂々と生きよ」とあります。その際には、消え去るために現われている自身の不完全な面のみに焦点を合わせて、「私なんて…」と神聖の火を消すことはナンセンスであります。

時代はもう、意識の軸足を人間ではなく、神聖に置く時期に入っています。ゆえに、2020 年代に入って以降、また今年に入って以降、神聖復活の印を組む方々の中から、全国で大勢の方々が“神聖当り前”の境涯に入り、無限なる幸せを手になされています。

私たちは、地球を平和な星として完成させる目的を持って地球に降り立ち、いったんは神としての本質を見失いながらも地上界の開拓と同時に、自らの心の内に、天と地を繋ぐ光の梯子をかけ直すべく、数多の輪廻転生のなかで自らを磨き、育て、高め上げてきました。

その悠久の努力が実った今、私たちは未完ながら地球の全存在に寄り添い、自らの心身を人類が天へと昇る梯子・階段・エスカレーター・エレベーターとして提供しながら生きています。あと少しの未完の準備は心の中にあります。心の中に住むたくさんの自分達を大調和させることで、私たちは五感に映ずる世界にも、すべてに内在する神聖を認めることが出来るように変わります。

そのため土曜日の夜は、もう一步踏み込んで自らを啓蒙し、さらなる意識進化をはかる取り組みを行ないます。私たちは、過去が消えてゆくために表われた不調和な状況を見て、それを今だと思い違いしていた記憶を、人類に先駆けて手放します。そして、すべてに内在する神聖を、心底から認める神聖の感覚・直覚を深めてまいります。

★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★

2024 年 5 月 25 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 初めの話

皆様、こんばんは。夜のズーム祈りの会を始めます。

本日は、私たちがすでに神聖の領域に足を踏み入れて生きていることを再確認すると共に、世界の誰もが神そのものとしての生き方ができるように、私たちが切り開いてきたそれぞれの小さな小径(こみち)を、各々が神聖の大道として切り開く、きっかけの日にしてまいります。

また今日は、たくさんの神聖の言霊をご一緒に唱えることで、私たちの精神と肉体を形づくるたくさんの細胞さんたちを活性化して、思い込み・こだわり・決めつけ・勘違い・執着といった把われの想いを手放し、いのちが本来持っている自由自在性を活性化する練習をします。

そのように、光・真理・神聖の言葉を繰り返し繰り返し唱えるときのコツは、言葉が持つ光の波を心と体の隅々にまで染み込ませるように、他の想念が入り込む隙間のないリズムで言葉を発し続け、唱え続けることです。

それは、過去の聖者方が最終最後の段階で、神聖に波長を合わせきるために行なってこられた修業に繋がる、『神の響きに完全に同化するためのやさしいバージョンの修行』です。

私たちが日常生活の中で、うまずたゆまずそれを行ない続けますと、私たちの肉体と精神は知らない間に神聖の波動に馴染んでいて、いつの間にか神の響きで生きている私達に変貌してまいります。そのことは、「論よりも証拠」ですので、早速始めてまいりたいと思います。

はじめに、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。

★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★

1. 世界平和の祈り

世界人類が平和でありますように。

日本が平和でありますように。

私たちの天命が完うされますように。

守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.

May peace be in our homes and countries.

May our missions be accomplished.

We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★

2. 自らの神聖を完全に発現する時間

次は、自らの神聖を完全に発現するための言葉を唱えます。私たちは本来、宇宙を創造した大いなる力、無比絶対なるエネルギーを内に分け持つ存在です。それをみんなが忘れていたがために、何千年、何万年もの間、不調和な世界になっておりましたが、もうそうした揺りかごの時代は最終局面を迎えております。私たちが人類の先陣を切って、生命の本質である神聖を完全に想念・言動・行為に顕わすことによって、大調和世界をこの星に展開できる天の機が熟したからです。そこで本日はまず、自らの神聖を完全に発現するための言葉を、声に出して心に染み込ませてまいります。リーダーの「はい」の声を合図に、ご一緒にお唱えください。

『私たちは地球の共同創造者であり、宇宙を創造した無限の叡智を分かち合っている存在である。高次の内なる神性、守護霊・守護神意識と同調して生きるかぎり、私たちの人生において不可能はなく、何でも達成できる存在である。』 × 7 回連続

★♥☆☆★♥☆☆★♥☆☆★♥☆☆★♥☆☆★

3. 守護霊との一体感を養う練習

それでは次に、守護霊様との一体感を養う練習を行ないます。「守護霊様」といいますと、自分とは別の誰かが守ってくださっていると勘違いしがちですが、守護霊様は守護霊意識として、私たちの魂に組み込まれている人間の内部神性、高次の意識、ハイアーセルフともいえる意識です。私たちは、守護霊様と一つに繋がって離れることなく生きてさえいれば、守護神様とも自動的に繋がって生きることが出来ます。そこで本日は、「守護霊様、ありがとうございます」という感謝の言葉を 21 回唱えることで、守護霊様との一体感を養う時間を持ちます。

『守護霊様、ありがとうございます』 × 21 回連続

★♥☆☆★♥☆☆★♥☆☆★♥☆☆★♥☆☆★

4. 自らに内在する無限なる力を言霊で引き出す時間

次は、私達の神聖に備わっている無限なる諸々の力・能力・可能性を引き出す言霊を 7 種類、21 回ずつ唱えてまいります。リーダーが「はい」と申しましたら、ご一緒にお唱えください。

4-1. 愛を標準装備する信念を養う練習

『無限なる愛』『無限なる慈しみ』 × 21 回連続

4-2. 器の大きさを標準装備する練習

『無限なる赦し』『無限なる包容力』 × 21 回連続

4-3. 病に打ち勝つ信念を標準装備する練習

『無限なる健康』『無限なる治癒力』 × 21 回連続

4-4. 若さを維持する信念を養う練習

『無限なる若さ』『無限なる新陳代謝』 × 21 回連続

4-5. 守護の神霊との繋がりを標準装備する練習

『無限なる直観力』『無限なるひらめき』 × 21 回連続

4-6. 眞實を見極める力を養う練習

『私は、本心と業想念の見極めが出来ています』 × 21 回連続

4-7. 神聖を自らに顕現する力を養う練習

『無限なる進化』『無限なる向上』『無限なる創造力』 × 21 回連続

★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★

5. 神聖復活の印

次は、神聖復活の印です。「はい」の合図で、ご一緒に宣言をしてお組みください。7 回連続を 3 セット行ないます。それでは始めます。はい。

<一回目の宣言>

私達はすべての自然と一つに結ばれています。
すべての自然の天命は完うされています。

[神聖復活の印を七回連続]

<二回目の宣言>

私達はすべての生物と一つに結ばれています。
すべての生物の天命は完うされています。

[神聖復活の印を七回連続]

<三回目の宣言>

私達はすべての人類と一つに結ばれています。
世界人類の天命は完うされています。

[神聖復活の印を七回連続]

★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★

以上